

# 平成25年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 3

主要事業名	市費負担嘱託・臨時職員配置事業	作成日	H26.6.24	
		担当	部名	教育委員会事務局
			課名	鹿嶋っ子育て課

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	① 基礎・基本の定着を図る教育の充実

## 2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。  鹿嶋市の地域性を活かして自分の生き方を創造し、それによって地域の人々と豊かな生活を築いて行こうとする「鹿嶋っ子」を育成するため、主体的に学ぶ意欲を持ち、達成感や充実感を味わいながら自らの課題を発見、解決できる力を育てる教育環境を整備する。
------	--

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ・学校需要に合わせた市費負担職員の配置 ・学校と教育委員会の円滑な連携
--------	--

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。	
	対象	市立小学校・中学校
	規模	小学校12校、中学校5校

予算科目コード		会計	01	款	10	項	目	事業名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		全体計画							(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
投入コスト	事業経費							アシスタントティーチャー（報酬・賃金）	44,667	49,131	50,437	50,437	50,737	50,437
								チームティーチング講師嘱託職員（報酬）	29,582	29,779	29,823	29,823	29,823	29,823
								専科教員配置（報酬）	2,833	4,307	6,260	6,260	6,260	6,260
								日本語指導ボランティア（謝礼）	30	47	120	120	120	120
								社会人ボランティア（謝礼）	456	560	560	560	560	560
								合計	77,568	83,824	87,200	87,200	87,500	87,200
		財源内訳						国県支出金						
							地方債							
							その他（参加者負担金）							
							一般財源	77,568	83,824	87,200	87,200	87,500	87,200	
	従事職員数						正規職員	3	3	3	3	3	3	
							その他職員	3	3	3	3	3	3	

根拠法令	
------	--

事業の性質	<input type="checkbox"/>	法定受託事務	<input type="checkbox"/>	自治事務（義務）	<input type="checkbox"/>	自治事務（任意）	<input type="checkbox"/>	市民サービス	<input type="checkbox"/>	管理経費
事業期間	<input type="checkbox"/>	単年度	<input type="checkbox"/>	年度繰返し	<input type="checkbox"/>	期間限定	<input type="checkbox"/>	建設事業	<input type="checkbox"/>	その他
								年度から		年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。  一人ひとりの実態に即した「個に応じた指導」の一層の充実を図るためには、より効果的なチームティーチング及びアシスタントティーチャーの個別支援を取り入れた授業展開が求められている。小学校4年生以上の高学年の理科、音楽等では、教科内容がより専門性を増すため、免許を有する専科教員による授業が学力向上のために重要になってきている。保護者からも個別指導・専門的な指導の充実の要望が高まっている。
--------------------------	--

3 具体的施策評価

市費負担嘱託・臨時職員配置事業

「(アウトプット)評価」、「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果, B:予定通りの成果, C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標	インプット	アウトプット	アウトカム	執行工夫・日常業務改善の取り組み	個別事業実績評価
	数値目標	必要性	執行段階の効率性	有効性		
①各小中学校に対する市費負担職員の要望聞き取り, 状況確認の実施 【比率: 10%】	市費負担職員(AT・TTなどの嘱託職員・臨時職員)が教職員との役割を検討し, 児童生徒が楽しく興味を持って学習出来るようにする。	児童生徒の指導, スムーズな授業展開をするためには, 勤務の状況を確認する必要がある。	自己申告書を提出していただいた(職員の2/3以上提出)。 【目標達成度】 自己申告書により要望等の把握が出来た。 評価: A	嘱託・臨時職員と教員が, それぞれの役割分担をはっきりとさせることで, 充実した授業展開が出来た。 施策の有効性評価: A	毎月の出勤簿や休暇・欠勤届の状況を確認し, 職員の健康や状況を確認し, 不明な点はその都度学校へ状況を確認している。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 10 【課題】 勤務時間に限りがあるため, 市費負担職員(任期付)と担任等との打合せや情報共有が難しい。
②アシスタントティーチャールの配置 【比率: 25%】	教員が子どもたちと向き合う時間を増やして, 児童一人ひとりへのきめ細やかな指導の充実を図っていく。	児童一人ひとりへのきめ細やかな指導を行うには, 教員で補えない部分をアシスタントティーチャーにより補う必要がある。	・小学校39名配置 ・中学校1名配置 特別の支援を必要とする児童のサポートや学級支援などで活用した。 【目標達成度】 学校の配置要望に対応できた。 評価: A	休み時間や給食等も, 教員が子どもたちと向き合う時間が増えた。児童とふれあいながら人間関係を構築することができ, 基礎学力の定着につながった。 施策の有効性評価: A	ATに対し全体研修を行い, 各学校で, 学習指導, 生活指導面での研修や指導をお願いしている。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 25 【課題】 25年度は特に課題はなし。アシスタントティーチャーの配置については定着してきているので, 今後も継続して取り組んでいく。
③TT嘱託職員の配置 【比率: 25%】	個別指導の充実により, 一人ひとりの「基礎学力の定着」「学力の向上」を図る。	「基礎学力の定着」「学力の向上」を図るためには, 教員免許を保有する者の適格な指導が必要である。	・小学校5人, 中学校12人配置 一人一人への助言指導, きめ細やかな授業を展開した。 【目標達成度】 学校の配置要望に対応できた。 評価: A	子どもへの声掛けが増え, 学習状況が十分でない子どもに応じた指導ができた。 施策の有効性評価: A	TT嘱託職員は教員免許を保有する者を採用しているため, 各学校で, 学習指導, 生活指導面でも活用している。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 25 【課題】 特に大きな課題はないが, 今後もTTの役割分担などについて更に検討し, 教職員との情報交換や打ち合わせ時間を確保していく。
④専科担当嘱託職員の配置 【比率: 20%】	教員が子どもたちと向き合う時間を増やして, 児童一人ひとりへのきめ細やかな指導の充実を図っていく。	児童一人ひとりへのきめ細やかな指導を行うには, 教員で補えない部分を専科担当嘱託職員により補う必要がある。	平井小5・6年の理科, 鹿島小5・6年の理科, 鉢形小4～6年の音楽, 三笠小5・6年生に音楽, 計4名配置 【目標達成度】 25年度は理科専科を1名増員し, 教科指導を充実させた。 評価: A	理科の学力については, 全国平均を上回る結果が出ている。 施策の有効性評価: A	理科や音楽が楽しく, わかりやすい授業展開ができるように取り組んでいる。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 20 【課題】 配置校が一部なので, 今後は全校に専科教員を配置できるようにする。
⑤日本語指導ボランティアの派遣 【比率: 10%】	外国籍児童や, 日本語指導が必要な児童生徒への教育を推進する。	外国籍児童や, 日本語指導が必要な児童生徒への教育については, 個に応じた指導が必要である。	2名の日本語指導担当者を活用。日常会話や物の名前学ばふところから始まり, 少しずつ学校生活で困らないように指導した。 【目標達成度】 教科書や補助教材を用いた読み書きができるようにした。 評価: A	教科書の読み書きを学ぶだけでなく, 先生や友達とのコミュニケーション能力を身につけることが出来た。 施策の有効性評価: A	学校を通して, 外国籍児童や, 日本語指導が必要な児童生徒の状況把握をしている。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 10 【課題】 特になし。このまま日本語指導は継続していく。
⑥社会人ボランティアの活用 【比率: 10%】	専門的な知識や経験を駆使して仕事を社会人ボランティアを活用し, 活力ある立体的・体験的な学習を実施する。	学力の向上だけでなく, 体験的な学習により他者への暖かな心情, 判断力, 実践意欲などの道徳性, 豊かな心の育成が必要である。	読み聞かせや手話体験, 音遊び, そろばん教室, 中学校では職業人の話, 福祉体験, ギター教室などを実施。 【目標達成度】 予算の98%実施。 評価: A	教員以外の社会人(大人)との関わりや学校の授業では体験できないことを体験することにより, 豊かな心の育成につながった。 施策の有効性評価: A	各学校には, 1年間の社会人ボランティアの活用計画を提出。前年度の実績内容等を参考に, 予算の配分を決定している。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 10 【課題】 読み聞かせのみで終わってしまっている学校もあるので, 様々な体験学習を取り入れていくようにする。

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に, アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ, 個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	100.0	A:合計点数が80点以上 B:合計点数が65点以上80点未満 C:合計点数が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政, 他市での取り組みなどを考慮し, 事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 個に応じた指導の充実を図り, 一人ひとりの能力を伸ばすために, 質の高い専門性をもった人材の配置や, 児童生徒へのサポートが必要不可欠であると考え, 採用の際には選考試験を行い, 採用後も特別な支援を要する児童に対する支援等の研修を行う等, 職員の資質向上も行った。また, 社会人ボランティアの活用, 日本語指導ボランティアを活用し, 体験的な学習や個に応じた指導の充実を図った。				
	継続・休止の理由	継続	理由	一人ひとりの実態に即した「個に応じた指導」の一層の充実を図るために, 効果的な個別支援を取り入れた授業展開が求められている。		
	課題	継続する場合, 現状認識を踏まえた課題について記入してください。 TT及びATの導入による成果や必要性は今後減少することはない。AT, TTの勤務時間が5.5時間と短い時間の中で, 教職員との情報交換や情報共有を密に取ることが, 困難になっている。				
	改善策	課題に対する改善策について, 期限や具体的な数値などを記入してください。 より効果的なTT・ATの個別支援や教職員間の情報共有, 師範塾の研修講座を地道に継続して資質向上を図ることが重要と考える。不足する部分については, 指導力向上やAT, TTの役割分担などについて更に検討し, 打ち合わせ時間の確保をしていく。さらに生徒理解等に関する資料を作成・配付するなど, 各学校でも指導・研修を行ってもらうことで資質の向上を図っていく。例年同じ内容だが, 継続していくことが重要だと考える。				

# 平成25年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 4

主要事業名	小学校教育研究事業	作成日	H26.6.25
		担当	鹿嶋っ子育成課
		部名	教育委員会

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	② 健やかな心身を育む教育の充実

## 2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 鹿嶋市教育基本計画の重点施策でもある子どもたち自身が自分の理想的な人格的価値を選択したり創造したりする力をもった「鹿嶋っ子」の育成に今後も積極的に取り組む必要がある。そのため、教科・領域はもとより、総合的な学習の時間を有効に活用し、特色ある学校教育活動や校外学習活動、さらには他市との交流の機会を設けることで、より充実した小学校教育の推進を図る。
------	--

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ・各学校独自の施策を尊重 ・施策の完全実施
--------	--

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。			
	対象	市内小学校児童及び教職員	規模	約3,800人

予算科目コード		会計	01	款	10	項	02	目	02	事業名	5308 小学校教育研究費					
投入コスト	全体計画				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度						
					(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)						
	事業経費	委託料（特色ある教育活動）				3,000	3,240	3,240	3,240	3,240	3,240					
		補助金（校外学習）				589	630	630	630	630	630					
		負担金（小学校交流事業）				0	870	500	900	900	900					
	合計				3,589	4,740	4,370	4,770	4,770	4,770						
	財源内訳	国県支出金														
		地方債				3,589	4,740	4,370	4,770	4,770	4,770					
		その他(参加者負担金) 一般財源				3,589	4,740	4,370	4,770	4,770	4,770					
	従事職員数					3	3	3	3	3	3					

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	年度から	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 平成20年度の学習指導要領の改訂において、“生きる力の育成”や“創意工夫を生かした特色ある教育”などの指針が示され、各学校においては、自主性・自立性のもとに創意工夫を生かした教育課程を編成、実施するとともに、評価、改善していくことが期待される。 鹿嶋市では、平成17年度から継続して「特色ある学校教育活動」を実施しており、一定の成果が得られていることから、今後も継続して実施していく。
--------------------------	---



3 具体的施策評価

小学校教育研究事業

「(アウトプット)評価」、「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果, B:予定通りの成果, C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標	インプット	アウトプット	アウトカム	執行工夫・日常業務改善の取り組み	個別事業実績評価
	数値目標	必要性	執行段階の効率性	有効性		
①小学校ごとの特色ある教育活動の実施  【比率： 40 %】	子どもたち自身が自分の理想的な人格の価値を選択したり、創造したりする力を持った「鹿嶋っ子」を育成する。 ・特色ある学校教育活動研究推進委託事業の適正な執行管理。	必要十分な配当予算の中で行う学校運営において、学校独自の活動の実践を可能にする事業である。	事業計画書及び事業報告書の提出により、執行状況を把握した。 [目標達成度] 計画事業実施率100% ・国際理解交流学習 ・教育指導先進校の視察 ・外部講師の講演会 等  評価： A	学習要領に沿った教育課程だけでなく、創意工夫を凝らした教育活動を付加することで、子どもたちの選択の幅を広げることができた。  施策の有効性評価： A	各学校の創意工夫を凝らした魅力的な教育活動の実施を推進した。 また、授業公開や校内研修を行うことで教職員の指導力の向上にもつながった。  工夫・改善取組評価： A	個別事業実績評価点： 40 [課題] 事業予算執行において、科目によっては予算額超過が見受けられるので、指導主事を中心に、学校へ趣旨を理解してもらうよう働きかけ、適切に予算を執行してもらうよう指導していく。
②小学校4年生と6年生を対象とした宿泊を伴う校外学習(宿泊学習)の実施  【比率： 30 %】	全小学校における4年生及び6年生の宿泊を伴う校外学習の実施。	校外の自然や文化に触れさせることによって、児童に豊かな経験を与え、学校における学習活動を充実、発展させるとともに、集団行動の楽しさを感じさせる。また、友愛協同の社会的態度をかん養するとともに、心身の向上を図ることができる。	・白浜少年自然の家(小4) ・校外学習(小6) [目標達成度] 全小学校において4,6年生の宿泊学習を実施した。また、校外における集団活動をとおり、児童の新たな一面の発見があった。  評価： A	非日常的な環境下で行う校外学習によって、児童の新たな一面の発見や「生きる力」の育成を図ることができた。  施策の有効性評価： A	少人数学級については、予算の中で対応できる範囲で宿泊先を変更する等、柔軟に対応している。  工夫・改善取組評価： A	個別事業実績評価点： 30 [課題] 事業予算執行において、科目によっては予算額超過が見受けられるので、学校へ趣旨を理解してもらうよう働きかけ、適切に予算を執行してもらうよう指導していく。
③「災害時相互応援に関する協定」の締結をした青森県五所川原市と、小学生同士の交流事業を実施  【比率： 30 %】	五所川原市へ訪問しての交流事業(2泊3日)の実施。 ・小学5年生24人参加	鹿嶋市と青森県五所川原市の両小学生が、お互いの市を訪問し、交流を深めることで、地域や生活習慣の違いを超えた友情を育み、広い視野と感覚をもった次世代を担う人材を育成することができる。	鹿嶋市内小学5年生から、24人の小学生が参加した。 [目標達成度] 募集定員数の参加があり、参加者全員が事前の資料作成、交流事業での発表に係わることができた。  評価： A	他市の5年生と交流を図り、お互いの地域の歴史や文化を理解し合うことができた。また市内他校の友達とも交流を図ることができた。  施策の有効性評価： A	五所川原市へ訪問する前に、鹿嶋市を紹介するための資料作成など、事前研修を行った。また、五所川原市の担当職員との情報交換を行った。  工夫・改善取組評価： A	個別事業実績評価点： 30 [課題] 移動手段がバスのため、10時間かかり、1日目と3日目が移動のみで終わってしまう。
【比率： %】			[目標達成度]  評価：	施策の有効性評価：	工夫・改善取組評価：	個別事業実績評価点： [課題]
【比率： %】			[目標達成度]  評価：	施策の有効性評価：	工夫・改善取組評価：	個別事業実績評価点： [課題]

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	100.0	A:合計点数が80点以上 B:合計点数が65点以上80点未満 C:合計点数が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。  市内全小中学校において、年度始めに計画した内容に基づき特色ある学校教育活動に取り組んでいる。今後も継続して実施していく。					
	継続・休止の理由	継続	理由	より充実した学校教育を推進していく為には、学習指導要領に付加した教育課程が必要であると考えられるため。			
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。  限られた予算の中で最大限の効果が得られるよう、事業計画の内容を精査すると共に、事業の趣旨に則した適切な予算を執行してもらえるよう指導していく。					
	改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。  年度当初の学校への予算説明会において、事業の趣旨をよく説明したうえで、提出された事業計画書の審査を徹底する。					

# 平成25年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 5

主要事業名	長期欠席児童生徒解消	作成日	H26.7.2
		担当	鹿嶋っ子育て課
		部名	教育委員会

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	② 健やかな心身を育む教育の充実

## 2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。  児童生徒一人ひとりの学ぶ権利を尊重し、社会性を身に付け自己肯定感を高めることのできる教育環境の充実を図れるようにする。
------	--

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	・小・中学校への訪問及び相談活動の実施
	・保護者の不安解消
	・様々な体験活動の実施

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	市内小中学校児童生徒及び保護者	規模

予算科目コード		会計	01 款	10 項	01 目	04 事業名	ゆうゆう広場経費					
		全体計画					24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
							(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
投入コスト	事業経費	ゆうゆう広場経費(人件費)					11,507	11,527	11,669	11,669	11,669	11,669
		ゆうゆう広場経費(管理)					846	959	997	997	997	997
		合計					12,353	12,486	12,666	12,666	12,666	12,666
		財源内訳										
			国庫支出金									
		地方債										
		その他(参加者負担金)										
		一般財源				12,353	12,486	12,666	12,666	12,666	12,666	
従事職員数		正規職員				6	6	6	6	6	6	
		その他職員										

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○ 自治事務(任意)	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○ 年度繰返し	期間限定	建設事業	その他
				年度から	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 ゆうゆう広場とは、適応指導教室である。学校とは併設していない独立した建物である。相談員は室長を含む6名である。職員は、小中学校への訪問相談活動（2名）とゆうゆう広場での相談活動（3名）を行っている。 教育相談指導員が市内小中学校への訪問及び相談活動を実施し、児童生徒の不安や悩みを解消することで不登校解消の実現が求められている。また、不登校児童生徒の学校復帰の足掛かりとなるように、ゆうゆう広場で社会性を身に付ける体験活動を実施し、児童生徒の自己肯定感を高める取り組みがなされている。さらに、子育て講演会を実施して悩みを抱える保護者の不安や悩みを解消したり、多様な問題に適切に対応できる教育相談指導員の資質向上を図ったりと長期欠席児童生徒解消のための更なる効果的な体制づくりの整備が求められている。
--------------------------	--

3 具体的施策評価

長期欠席児童生徒解消

「(アウトプット)評価」, 「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は, 以下の3段階評価を行う。A: 予定以上の成果, B: 予定通りの成果, C: 当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標	インプット	アウトプット	アウトカム	執行工夫・日常業務改善の取り組み	個別事業実績評価
	数値目標	必要性	執行段階の効率性	有効性		
①教育相談指導員による小・中学校への訪問及び相談活動の実施(月1回以上) 【比率: 25%】	教育相談指導員が市内小中学校に年10回以上訪問及び相談活動を実施する。	不安や悩みを抱えた児童生徒・保護者の心の安定を図るために相談活動を行う必要がある。	児童生徒・保護者との相談活動を予定通り実施した。 [目標達成度] 市内小中学校10回以上の訪問及び相談活動を行った(のべ257回実施)。 評価: B	児童生徒・保護者ともに, 継続での相談依頼が多く, 学校からの追加要請にも応じたため, 相談者及び学校からは好評であった。 施策の有効性評価: A	教育相談指導員が積極的に児童生徒に対してコミュニケーションを図ることで, 効果的な相談に結びつけた。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 23 [課題] 児童生徒・保護者がより相談しやすい環境づくりと体制づくりを目指す。
②悩みを抱えた保護者を対象にした子育て懇談会の実施(月1回以上) 【比率: 25%】	毎月第4金曜日に子育てで悩んでいる保護者のために子育て懇談会を実施する(年10回以上の実施)。	不登校や引きこもりなど, 子育てに関して悩みや不安をかかえている保護者を対象に情報交換の場を提供し, 前向きな気持ちで子育てを行える環境をつくる必要がある。	懇談会に参加した保護者の情報交換の充実が図られた。 [目標達成度] 予定通り, 年10回実施ができた。 評価: B	懇談会に参加した保護者から「参加してよかった」「引き続き開催してほしい」という声が聞かれた。保護者の悩みを軽減することに有効であった。 施策の有効性評価: A	懇談会で出された保護者からの声を児童生徒の関係する学校に伝え, 連携を図りながら児童生徒への指導の充実を行った。 工夫・改善取組評価: B	個別事業実績評価点: 21 [課題] ゆうゆう広場や教育指導員主導から保護者主導の自主的な活動へと発展させる。
③社会性を身に付け自己肯定感を高めるための様々な体験活動の実施 【比率: 25%】	ゆうゆう広場において年6回以上, 芋ほり作業・除草作業・理科実験などの体験活動を実施する。	体験活動を行うことで, 登校が困難な児童生徒が, 学校へ復帰するために必要な社会性を身に付け自己肯定感を高める必要がある。	児童生徒の状況に応じて体験活動を行うことで, 児童生徒の自己肯定感が高まった。 [目標達成度] 72回の体験活動を実施できた。 評価: B	登校が困難な児童生徒に体験活動を行うことで, 不十分になりがちな人との関わりをの大切さややすらひさを楽しむことに有効であった。 施策の有効性評価: A	登室する児童生徒の心の状態を把握し, 思いや願いを尊重しながら決して無理強いをすることなく児童生徒が自己決定する場面を意図的に設定した。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 23 [課題] 児童生徒が人からの好意的な反応や評価を得ることで体験活動で得た自己肯定感を自己有用感へと発展させる。
④教育相談指導員の資質向上を図る研修の実施 【比率: 25%】	ゆうゆう広場の職員の相談員としての資質を養う研修体制の充実として, 不登校等対策連絡協議会や師範塾生徒指導関係講座を参加する。	教育相談業務を行うにあたり, 多種多様な事例に対応できるようにするために相談員としての資質の向上が必要である。	不登校等対策連絡協議会や師範塾生徒指導関係講座に参加した。 [目標達成度] 毎回参加し, 共に研修を図った。 評価: B	参加した相談員からは, 学校との連携が図られ, 児童生徒の悩みや不安の解消のための研修を深めることができたとの意見が出た。 施策の有効性評価: B	協議会及び講座等において, グループワークを取り入れ, 相談員と学校職員とが情報交換が行いやすい場を設定した。 工夫・改善取組評価: B	個別事業実績評価点: 18 [課題] 事例検討だけでなく, より専門的な研修の機会を設けていく。
【比率: 0%】			[目標達成度] 評価: B	施策の有効性評価: B	工夫・改善取組評価: B	個別事業実績評価点: 0 [課題]

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に, アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.7, C=0.5)を乗じ, 個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	83.5	A: 合計点数が80点以上 B: 合計点数が65点以上80点未満 C: 合計点数が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。					
	継続・休止の理由	継続	理由	教育相談指導員の資質向上は, 児童生徒及び保護者への支援を行う上で欠かすことはできない。			
	課題	継続する場合, 現状認識を踏まえた課題について記入してください。					
	改善策	学級や学校が安心して生活できる場所でないと感じる児童生徒が, 不登校になっていると考える。そのために, 児童生徒の居場所づくり(学級づくり)の実現のための体制づくりとその実現のための研修を深める必要がある。 課題に対する改善策について, 期限や具体的な数値などを記入してください。 各学校とゆうゆう広場との連携を強化する。さらに, 小学3年から中学3年において実態調査(アンケート等)を年2回実施し, 学級の実態把握と対応策についての検討する。それをもとに児童生徒の居場所づくり及び絆づくりを実践することで, 不登校児童生徒の出現率を減少させる。					

# 平成25年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 6

主要事業名	ICT教育の充実	作成日	H26.6.24
		担当	教育委員会
		部名	鹿嶋っ子育成課

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	⑤ ICT教育の充実

## 2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 電子黒板や学習者用パソコン等のICT機器を活用した教育を推進することで、一人ひとりの個性や能力に応じたわかりやすい授業を実施する。 情報活用能力の育成を通じて、子どもたちが生涯を通して、社会のさまざまな変化に主体的に対応できるための基礎・基本の習得をすることにより、「生きる力」を育成する。
------	---

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ・ 施策進捗の管理 ・ ハード環境の把握と、より効果的な活用法の研究 ・ ハード利用促進のための補助（研修等）
--------	---

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。 対象 市内6小学校児童 規模 約1,750人
--------	--

予算科目コード		会計	01	款	10	項	02	目	02	事業名	小学校教育設備及び教材費 他					
		全体計画									24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
											(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
投入コスト	事業経費									電算機借上料	45,647	40,323	47,081	90,000	90,000	50,000
										施設整備工事費	773	8,131	11,388	770	770	770
										合計	46,420	48,454	58,469	90,770	90,770	50,770
										国県支出金						
										地方債						
									その他(参加者負担金)							
									一般財源	46,420	48,454	58,469	90,770	90,770	50,770	
									従事職員数		2	2	2	2	2	2
									職員数		0	0				
									正規職員		2	2	2	2	2	2
									その他職員		0	0				

根拠法令	
------	--

事業の性質		法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)		市民サービス	管理経費
事業期間		単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	その他
								年度から	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 平成20年7月、教育基本法に基づき、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「教育振興基本計画」が閣議決定され、教育の情報化の関連では、教育用コンピュータ、校内LANなどのICT環境の整備と教員のICT指導力の向上の支援、教材・コンテンツの利用等の支援、ICTの教育への活用の促進、校務の情報化、ICT化のサポート体制の充実などを推進することとされている。
--------------------------	---



3 具体的施策評価

ICT教育の充実

「(アウトプット)評価」、「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果、B:予定通りの成果、C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標	インプット	アウトプット	アウトカム	執行工夫・日常業務改善の取り組み	個別事業実績評価
	数値目標	必要性	執行段階の効率性	有効性		
①タブレット型端末整備 【比率： 30 %】	パソコン教室のパソコン貸借更新に伴い、モデル校6校にタブレット型端末を整備し、急速に進展する情報化社会に対応できるよう子どもたちの情報活用能力を育成する。	情報活用能力を育成するためには、子どもたちにICT機器を活用した授業の理解を深める必要がある。そのためにはより楽しみながらわかりやすい授業をする必要がある。	タブレット型端末を整備（6校196台）したことで、子どもたちにとってICT機器がより身近なものとなった。 【目標達成度】 子どもたちが意欲的に授業に取り組む姿が見られた 評価： A	教室外に持ち運べることで、教職員は教える方法のバリエーションが増えた。それに伴い子どもたちも授業に対する興味が増し、好奇心を刺激する授業が出来ている。ソフトは小学生向け学習・授業支援ソフトのジャストスマイルを導入し、体育や理科での写真・動画や国語の漢字の学習ドリルなどを活用している。	子どもたちの興味が一過性に終わらないため、楽しみながらわかりやすい授業をするよう工夫した。 工夫・改善取組評価： B	個別事業実績評価点： 24 【課題】 タブレット型端末で一部接続出来ないなどの障害が出る場合がある。また、操作知識がわからず、使いこなせない場合がある。
②2学期までにモデル校の校内無線LAN整備 【比率： 30 %】	モデル校6校のタブレット型端末の整備に伴う校内無線LAN整備し、パソコン教室以外でのタブレット型端末活用により授業の幅を広げる。	持ち運びがしやすいタブレット性能を生かすには、パソコン教室だけでなく普通教室等でもタブレット型端末を使用できる環境の整備が必要である。	モデル校6校、各校の各階にアクセスポイントを設置し、校内どこでもタブレット型端末を使用できるように環境を整備した。 【目標達成度】 当初の予定通り整備した。 評価： B	パソコン教室以外でも、タブレット型端末を使用可能になり、授業の幅が広がった。 施策の有効性評価： B	各階にアクセスポイントを数箇所設置し、接続面などで、快適な環境となるように整備した。 工夫・改善取組評価： B	個別事業実績評価点： 21 【課題】 一部のアクセスポイントで速度低下などの問題点があった。
③タブレット端末活用のための教職員研修実施 【比率： 15 %】	教職員を対象とした研修を実施し、教職員が積極的にICTを活用できる環境を整える。	教職員全体が学校のIT機器の理解を深めるためには、各学校でICTリーダーとなる人材の育成が必要である。	ICT活用ができるよう、IT支援員をリース会社から配置し、月2回程度、学校訪問を行い、研修指導した。 【目標達成度】 定期的な研修指導を実践した。 評価： B	ICTリーダーを育成することにより、ICTリーダーを中心に、学校内でICTを活用した授業の研究などが行われた。 施策の有効性評価： B	IT支援員はICT活用だけでなく、授業提案も行うなどを行った。 工夫・改善取組評価： B	個別事業実績評価点： 11 【課題】 年配の教職員のICT活用の苦手意識の解消が課題である。
④ノート型パソコンの整備 【比率： 25 %】	小学校教職員の校務用ノートパソコンを1人1台配置し、教員の事務負担の軽減を図ることにより、子どもと向き合う時間を確保する。	教員の校務の多忙化が指摘されており、教員1人1台のパソコン整備など、校務の情報化による効率化が求められている。	市内全12小学校の職員室の校務用パソコンをノートパソコンとし、1人1台配置とした。 ・計220台配置 【目標達成度】 当初の予定通り整備した。 評価： B	個人パソコンが無くなり、セキュリティ面の強化が図れた。また、データ保存先が、統合されたので、一部業務の効率化が図れた。 施策の有効性評価： B	教員のパソコンの動作をすべて監視できるソフトを導入し、各PCの状況やセキュリティー管理が効率的に行えるようにした。 工夫・改善取組評価： B	個別事業実績評価点： 18 【課題】 今後、校務支援ソフト（成績管理、名簿管理など）の導入も検討していく必要がある。
【比率： %】			【目標達成度】 評価：	施策の有効性評価：	工夫・改善取組評価：	個別事業実績評価点： 【課題】

4 自己評価結果 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	72.7	A:合計点数が80点以上 B:合計点数が65点以上80点未満 C:合計点数が65点未満	総合評価結果	B
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 鹿行地域では、いち早くタブレット型端末を導入（モデル校6校196台）し、校内どこでも使用できる環境を整備したことに伴い、子どもたちの学習意欲が高まった。また、平成24年度の中学校校務用PC整備（130台）に続き、平成25年度は小学校の校務用パソコンを220台整備したことで、教職員の負担が減り、子どもたちと向き合う時間が増えた。				
	継続・休止の理由	継続	理由	今後も急速に進む、情報化社会に対応するための能力を育成するため、時代の変化に合わせたICT環境の整備（指導方法を含む）を図る必要がある。		
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 子どもたちの意欲の向上が継続できるよう、教職員を対象とした研修など対策が必要である。また、無線LANにおける接続障害の対策が必要である。また、今後も急速に進む情報化社会に対応するための環境整備（時代にあったソフトの導入）に力を注ぐ必要がある。				
	改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 子どもたちの反応を把握し、より楽しく、わかりやすい授業を継続的に展開していく。そのための教職員に対するサポート体制の充実を図る。また、無線LANにおける接続障害に対するための対策（アクセスポイントの増設等）を図る。 情報化社会の動向を常に注視し、時代の変化に合わせた環境の整備（ソフトの更新など）を図っていきたい。				